

# 坂城町町内遺跡発掘調査報告書2003

——平成15年度試掘調査報告書——

2004.3

坂城町教育委員会

# 坂城町町内遺跡発掘調査報告書2003

——平成15年度試掘調査報告書——

2004.3

坂城町教育委員会

## 例 言

- 1 本書は長野県埴科郡坂城町における開発事業に伴う、平成15年度の町内遺跡の試掘調査報告書である。
- 2 調査の費用は、国庫の補助を得て町費で対応した。
- 3 調査の体制  
調査指導者 塩入 秀敏（上田女子短期大学教授、日本考古学協会会員）  
担 当 者 助川 朋広（坂城町教育委員会学芸員）  
齋藤 達也（坂城町教育委員会学芸員）  
協 力 者 朝倉 妙子、天田 澄子、坂巻ケン子、関 貴子、谷川 直和、塚田さゆり、  
萩野れい子（以上、町臨時職員）
- 4 事務局の構成  
教 育 長 大橋 幸文  
生涯学習課長 塚田 好一  
文化財係長 助川 朋広（前出）  
文 化 財 係 齋藤 達也（前出）  
朝倉 妙子、天田 澄子、坂巻ケン子、関 貴子、谷川 直和、塚田さゆり、  
萩野れい子（以上、町臨時職員）
- 5 本書の執筆・編集は齋藤が行った。
- 6 本書及び調査に関する資料は、坂城町教育委員会の責任下において保管されている。

## 凡 例

- 1 本文中の面積は、開発対象面積と調査面積を記載し、（ ）内に調査面積を記載した。
- 2 挿図の縮尺は、各図ごとに縮尺を示した。
- 3 遺物の挿図中での表記は、第1図1は簡易的に1-1と表記した。

# 目 次

例 言

凡 例

第 I 章 坂城町の遺跡の立地と環境	1
第 1 節 地理的環境	1
第 2 節 歴史的環境	1
第 II 章 調査の結果	6
1 中之条遺跡群 5	6
2 込山 B 遺跡 3	8
3 金井遺跡	10
4 入田遺跡	12
5 上五明条里水田址 11	14
6 込山 D 遺跡	18
7 廻り目遺跡	23
8 南日名遺跡 2	25
報告書抄録	

# 第 I 章 坂城町の遺跡の立地と環境

## 第 1 節 自然的環境

坂城町は北信地方と東信地方の接触点にあたり、善光寺平を構成する更埴地方の最南端に位置する。また、町は貫流する千曲川の氾濫によって形成された氾濫原と、千曲川に流れ込む小河川がつくりだす扇状地によって形成された幅広い小盆地である坂城盆地に立地している。町の北から東にかけては五里ヶ峰・大峰山・虚空蔵山をはじめとする標高1100~1300m前後の山々が連続し、千曲市・真田町・上田市との市町村界を形成し、西は大林山、三ッ頭山などの標高1000m前後の山々が連続し、千曲市・上田市との市町村界となっている。南は千曲川右岸の岩鼻と左岸の半過の岩鼻が狭隘な地形を形成し、上田盆地と隔てられている。このような地形から、古来よりこの地域は千曲川流域の要衝の地として注目されてきた。

この地域の気候は、南北に開けた小盆地状をなしていることから、季節風の影響を受けやすいため、夏季は南風、冬季は北風が強い。また、盆地状になっていることから寒暖の差が大きい。降水量は少なく、日本で最も雨量の少ない地域の一つとされている。現在では、この気候を生かして、工業が主要な産業となっており、農業では、バラ・ぶどうの栽培が盛んである。

## 第 2 節 歴史的環境

ここで、坂城町の各時代について代表的な遺跡を挙げつつ、町の歴史的環境について概略的に触れておくこととする。(括弧内の数字は 3、4 ページの坂城町遺跡分布図における遺跡番号を示す。)

坂城町で最古の遺物は、約14,000~15,000年前の後期旧石器時代の上ヶ屋型彫刻器とされる石器である。この石器は保地遺跡(3-1)より採集されたものであるが、これ以外に後期旧石器時代の遺物は確認されていない。

縄文時代の遺構・遺物では早期押型文系の土器が和平A遺跡や平沢遺跡で採集されている。また、平成12年度に発掘調査が実施された込山C遺跡(30-3)からも押型文系の土器片が出土しているが、これらは現在整理中である。この他に込山C遺跡では縄文時代前期・中期の住居址も確認されている。後期・晩期では、学史的にも有名な保地遺跡が挙げられる。保地遺跡は昭和40年度と平成11年度に発掘調査が実施されている。前者は縄文時代後期後半から晩期後半までの土器・石器群と、後期後半に属するとされる特殊儀礼的遺構の出土が『考古学雑誌』に報告されている(関 1966)。後者については、縄文時代後期に位置づけられる再葬墓が検出されており、少なくとも19個体分の人骨が出土した。他には、込山D遺跡(30-4)から昭和初期に採集された遮光器土偶の頭部が挙げられる。

弥生時代では、中期以前の調査例がないため状況は不明である。後期後半では、平成5年度に南条地区の塚田遺跡(1-7)で発掘調査が実施され、この時期に属する竪穴住居址36棟をはじめとする遺構と、土器、石器、土製品、及び鉄器などが出土している。

古墳時代では、前期古墳は確認されていないが、中期古墳には仮称東平1号墳・2号墳が挙げられる(註1)。これらは、平成5年度に実施された上信越自動車道建設に伴う発掘調査で、埴輪や土器などの出土から、1号墳は5世紀第2四半期後半、2号墳は5世紀第2四半期前半に位置付けられた(若林 1999)。後期古墳では、町内でもいくつかの古墳群の存在が知られているが、中でも代表的なものは村上地区の福沢古墳群小

野沢支群に属する御厨社古墳である。内部施設に千曲川水系最大の横穴式石室を持ち、室全長11.2mを測り、勾玉や切子玉、耳環などが出土している。古墳時代後期の集落・祭祀遺跡では、環状に配列された土器群が検出され、全国的にも注目された青木下遺跡（1-8）が代表的である。青木下遺跡は現在整理中である。

奈良時代・平安時代の遺跡では、中之条地区の中之条遺跡群（8）とその周辺遺跡に多くの調査例があり、この地域における奈良・平安時代の状況が徐々に解明されつつある。具体的には、寺浦遺跡（8-1）、上町遺跡（8-2）、東町遺跡（8-3）、宮上遺跡（8-5）、北川原遺跡（8-6）、豊饒堂遺跡（20）、開畝遺跡（21）で調査が実施され、古墳時代後期後半～平安時代までの集落遺構と遺物が多数出土している。また、平安時代の生産遺跡として坂城地区の土井ノ入窯跡（32）があり、瓦の生産が行われていたことが分かっている。ここで生産された瓦は、現在の坂城小学校がある場所に8世紀末から9世紀頃に存在していたとされる込山廃寺跡（54）に用いられたほか、上田市信濃国分寺・国分尼寺、千曲市正法廃寺の補修用の差し瓦として使用されていたことが判明している。

中世に入ると、平安時代後期、寛治8年（嘉保元）（1094）に村上地区に配流されてきた源盛清が後に村上氏として勢力を持つようになり、戦国時代には村上義清が活躍するようになった。義清の頃、村上氏の居館は現在の満泉寺一帯に所在したとされ、その背後にそびえる葛尾山の山頂には、義清が使用した葛尾城跡があるが現存していない。このほか、中世の遺跡では坂城地区の観音平経塚（55）をはじめとする経塚と中之条地区の開畝製鉄遺跡（53）がある。観音平経塚は昭和54年と平成4年に調査がおこなわれたが、平成4年の調査では、経塚の年代は14世紀第2四半期とし、その周辺の五輪塔群の造営時期は14世紀第2四半期から16世紀前半頃に位置付けられている（若林 1999）。開畝製鉄遺跡は、昭和52・53年に坂城町教育委員会によって学術調査が実施され、16世紀頃の製鉄炉址2基が確認されている。この調査は県内初の製鉄遺跡の学術調査として学史に位置付けられるものである。

江戸時代に入ると、現在の坂城地区を主体とする坂木村、中之条地区を主体とする中之条村には幕府代官所が置かれ、以後明治維新まで天領として支配されたことから、この地域を重要視していたことがうかがわれる。代官所は最初、坂木（61）に置かれたが、明和4年（1767）に焼失し、その後、安永8年（1779）中之条に代官所（67）が置かれるようになった。

以上、坂城町の歴史について概略した。

註1 周知の御堂川古墳群東平支群1号墳・2号墳とは異なる可能性があるため、仮称とされている。今後、正式な古墳名称の確定が必要である。

#### 参考文献（五十音順・敬称略）

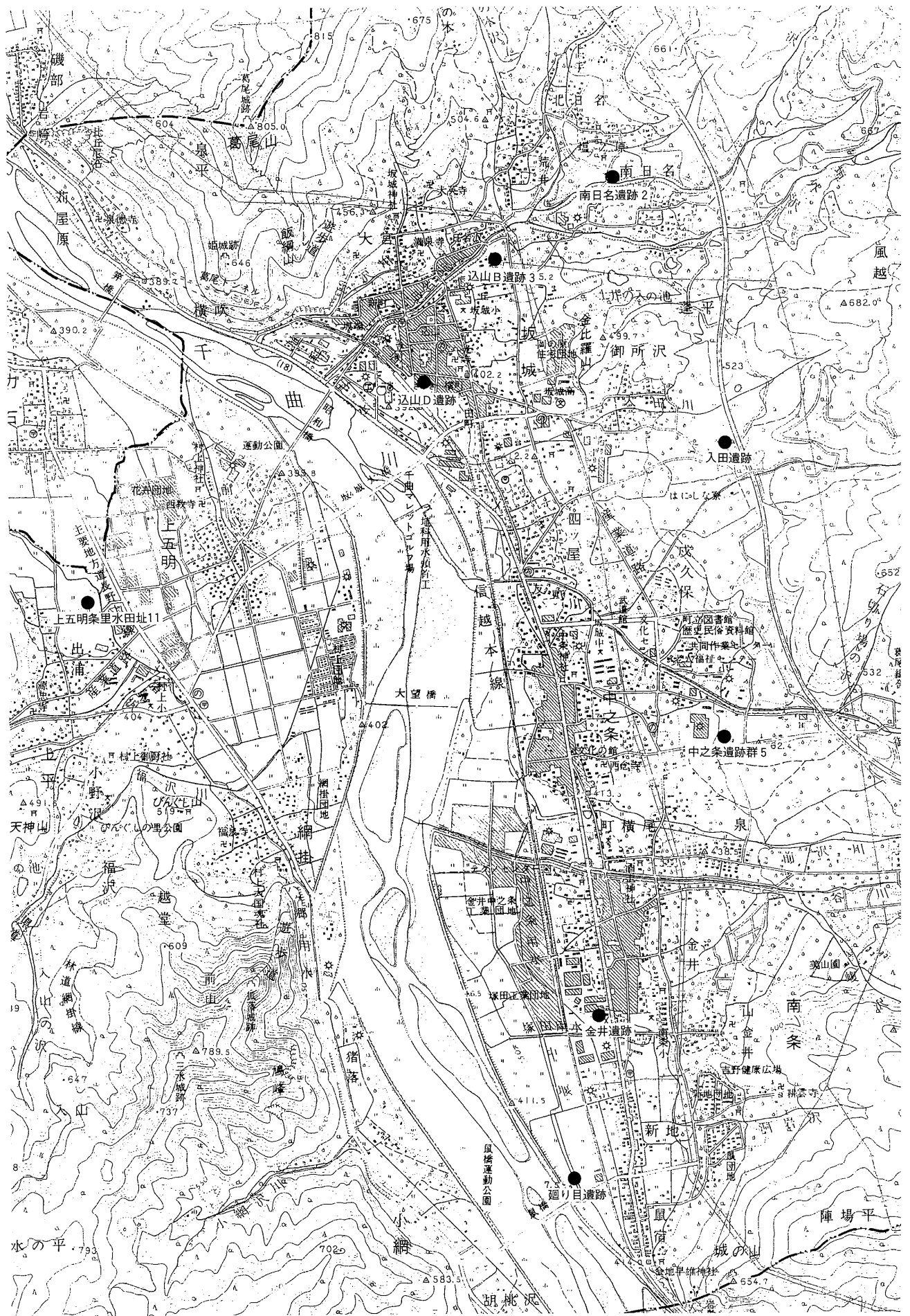
- 坂城町教育委員会 1978『開畝製鉄遺跡－第1次調査報告』 1979『開畝製鉄遺跡－第2次調査報告』 1993『宮上遺跡Ⅱ』 1995『東裏遺跡』  
1996『豊饒堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』 1996『寺浦遺跡Ⅱ』 2000『開畝遺跡Ⅲ』 2001『宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』 2002『保地遺跡Ⅱ』
- 関 孝一 1966「長野県埴科郡保地遺跡発掘調査概報」『考古学雑誌』第51巻第3号
- 森嶋 稔ほか 1981『坂城町誌』中巻 歴史編（一）
- 柳沢 亮 1998「第5節 開畝遺跡」『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書2』（財）長野県埋蔵文化財センター
- 若林 卓 1999「第9章 東平古墳群」「第11章 観音平経塚」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書21』（財）長野県埋蔵文化財センター



坂城町遺跡分布図

図面番号	遺跡名	種別	時代
1	南条遺跡群	集落址	弥生~平安
-1	南条遺跡群 東裏遺跡	集落址	弥生~平安
-2	南条遺跡群 御殿裏遺跡(鼠宿)	集落址	弥生~平安
-3	南条遺跡群 百々目利遺跡	集落址	弥生~平安
-4	南条遺跡群 中町遺跡(新地)	集落址	弥生~平安
-5	南条遺跡群 田町遺跡	集落址	弥生~平安
-6	南条遺跡群 廻り目遺跡	集落址	弥生~平安
-7	南条遺跡群 塚田遺跡(田端)	集落址	弥生~平安
-8	南条遺跡群 青木下遺跡	水田址、祭祀跡	弥生~平安
2	金井西遺跡群	集落址	縄文~平安
-1	金井西遺跡群 金井遺跡	集落址	縄文~平安
-2	金井西遺跡群 社宮神遺跡(金井西)	集落址	縄文~平安
-3	金井西遺跡群 並木下遺跡	集落址	縄文~平安
3	金井東遺跡群	集落址	縄文~平安
-1	金井東遺跡群 保地遺跡	集落址	縄文~平安
-2	金井東遺跡群 山金井遺跡	集落址	縄文~平安
-3	金井東遺跡群 大木久保遺跡(南条小学校敷地)	集落址	縄文~平安
-4	金井東遺跡群 酒玉遺跡	集落址	縄文~平安
4	栗ヶ谷古墳	古墳	古墳
5	社宮神経塚	経塚	中世
6	町横尾遺跡	散布地	縄文~平安
7	北畑古墳	古墳	古墳(後期)
8	中之条遺跡群	集落址	縄文~平安
-1	中之条遺跡群 寺浦遺跡	集落址	縄文~平安
-2	中之条遺跡群 上町遺跡	集落址	弥生~平安
-3	中之条遺跡群 東町遺跡	集落址	弥生~平安
-4	中之条遺跡群 北浦遺跡	集落址	縄文~平安
-5	中之条遺跡群 宮上遺跡	集落址	縄文~平安
-6	中之条遺跡群 北川原遺跡	集落址	縄文~平安
9	南条塚古墳(塚穴古墳)	古墳	古墳(後期)
10	谷川古墳群	古墳	古墳(後期)
-1	谷川古墳群 入横尾支群 向田古墳	古墳	古墳(後期)
-2	谷川古墳群 入横尾支群 刈塚古墳	古墳	古墳(後期)
11	入横尾遺跡	散布地	平安
12	谷川古墳群 上原支群	古墳	古墳(後期)
13	前原墳墓群	墳墓	中世~近世
14	御堂川古墳群 山口支群	古墳	古墳(後期)
15	山崎遺跡	散布地	縄文
16	御堂川古墳群 山崎支群	古墳	古墳(後期)
17	御堂川古墳群 前山支群	古墳	古墳(後期)
-1	御堂川古墳群 前山1号墳	古墳	古墳(後期)
-2	御堂川古墳群 前山2号墳	古墳	古墳(後期)
-3	御堂川古墳群 前山3号墳	古墳	古墳(後期)
-4	御堂川古墳群 前山4号墳	古墳	古墳(後期)
-5	御堂川古墳群 前山5号墳	古墳	古墳(後期)
-6	御堂川古墳群 前山6号墳	古墳	古墳(後期)
-7	御堂川古墳群 前山7号墳	古墳	古墳(後期)
-8	御堂川古墳群 前山8号墳	古墳	古墳(後期)
-9	御堂川古墳群 前山9号墳	古墳	古墳(後期)
-10	御堂川古墳群 前山10号墳	古墳	古墳(後期)
-11	御堂川古墳群 前山11号墳	古墳	古墳(後期)
-12	御堂川古墳群 前山12号墳	古墳	古墳(後期)
-13	御堂川古墳群 前山13号墳	古墳	古墳(後期)
-14	御堂川古墳群 前山14号墳	古墳	古墳(後期)
18	御堂川古墳群 東平支群 二塚古墳	古墳	古墳(後期)
19	御堂川古墳群 山田支群	古墳	古墳(後期)
20	豊鏡堂遺跡(山崎北遺跡)	集落址	縄文~弥生
21	開敷遺跡	集落	弥生~平安
22	人塚古墳	古墳	古墳(後期)
23	四ツ屋遺跡群	集落址	縄文~平安
24	成久保遺跡	集落址	古墳~平安
25	入田遺跡	散布地	奈良~平安
26	塚内古墳(御所沢古墳)	古墳	古墳(後期)
27	金比羅山遺跡	散布地	縄文~平安
28	蓬平経塚	経塚	中世
29	岡の原遺跡	窯跡	平安
30	込山遺跡群	集落址	縄文~平安
-1	込山遺跡群 込山A遺跡(水上)	集落址	縄文~平安
-2	込山遺跡群 込山B遺跡(社宮神)	集落址	縄文~平安
-3	込山遺跡群 込山C遺跡(込山)	集落址	縄文~平安
-4	込山遺跡群 込山D遺跡(根町)	集落址	縄文~平安
-5	込山遺跡群 込山E遺跡(立町)	集落址	縄文~平安
31	日名沢遺跡群	集落址	弥生~平安
-1	日名沢遺跡群 日名沢遺跡	集落址	弥生~平安
-2	日名沢遺跡群 丸山遺跡	集落址	弥生~平安
32	土井ノ入窯跡	窯跡	奈良~平安
33	平林遺跡	散布地	縄文

図面番号	遺跡名	種別	時代
34	垣外窯跡	窯跡	平安
35	平沢遺跡	集布地	縄文
36	和平遺跡群	集落址、散布地	縄文~平安
-1	和平遺跡群 和平A遺跡	集落址	縄文~平安
-2	和平遺跡群 和平B遺跡	散布地	弥生
-3	和平遺跡群 和平C遺跡	散布地	平安
37	金比羅山古墳	古墳	古墳(後期)
38	村上氏館跡	城館跡	中世
39	馬の背遺跡	散布地	縄文
40	北日名経塚	経塚	中世
41	北日名塚穴古墳群	古墳	古墳(後期)
-1	北日名塚穴1号墳	古墳	古墳(後期)
-2	北日名塚穴2号墳	古墳	古墳(後期)
42	梅ノ木遺跡	散布地	縄文
43	栗田窯跡	窯跡	奈良
44	葛尾城跡	城館跡	中世
45	出浦沢古墳群	古墳	古墳(後期)
-1	出浦沢古墳群 出浦支群1号墳	古墳	古墳(後期)
-2	出浦沢古墳群 出浦支群2号墳	古墳	古墳(後期)
-3	出浦沢古墳群 出浦支群3号墳	古墳	古墳(後期)
-4	出浦沢古墳群 出浦支群4号墳	古墳	古墳(後期)
-5	出浦沢古墳群 出浦支群5号墳	古墳	古墳(後期)
-6	出浦沢古墳群 島支群1号墳	古墳	古墳(後期)
-7	出浦沢古墳群 島支群2号墳	古墳	古墳(後期)
46	島遺跡	集落址	弥生~平安
47	福沢古墳群	古墳	古墳(後期)
-1	福沢古墳群 小野沢支群1号墳(御厨古墳)	古墳	古墳(後期)
-2	福沢古墳群 小野沢支群2号墳	古墳	古墳(後期)
-3	福沢古墳群 小野沢支群3号墳(ヤックラ古墳)	古墳	古墳(後期)
-4	福沢古墳群 小野沢支群4号墳	古墳	古墳(後期)
48	小野沢遺跡	集落址	弥生~平安
49	福沢古墳群 越堂支群	古墳	古墳(後期)
50	福泉寺裏古墳	古墳	古墳(後期)
51	狐塚城跡	城館跡	中世
52	三水城跡	城館跡	中世
53	開敷製鉄遺跡	製鉄跡	中世
54	込山鹿寺跡	寺院跡	平安
55	観音平経塚	経塚	中世
56	栗田小鍛冶跡	製鉄跡	中世
57	塩之原遺跡	集落址	奈良~平安
58	南日名遺跡	集落址	弥生~平安
59	葛尾城根小屋跡	城館跡	中世
60	姫城跡	城館跡	中世
61	坂本代官所跡	屋敷跡	近世
62	田町遺跡群	散布地	古墳~平安
63	御所沢墳墓群	墳墓	中世
64	常平窯跡	窯跡	平安
65	中之条石切場跡	採掘跡	近世
66	砥沢古墳	古墳	古墳(後期)
67	中之条代官所跡	屋敷跡	近世
68	砥峯窯跡	窯跡	平安
69	観音坂城跡	城館跡	中世
70	南郷の川遺跡(吉祥寺跡)	散布地寺院跡	奈良~中世
71	口留番所跡	屋敷跡	近世
72	和合城跡	城館跡	中世
73	高ツヤ城跡	城館跡	中世
74	虚空蔵山城跡	城館跡	中世
75	地獄沢黄鉄鉱採掘跡	採掘跡	近世
76	籠岩遺跡	散布地	平安
77	出浦城跡	城館跡	中世
78	上五明条里水田址	水田址	平安~近世
79	出浦遺跡	集落址	縄文~平安
80	村上氏館跡	城館跡	中世
81	福沢氏居館跡	城館跡	中世
82	小野沢窯跡	窯跡	奈良~平安
83	福沢古墳群	古墳	古墳(後期)
-1	福沢古墳群 五狭支群1号墳	古墳	古墳(後期)
-2	福沢古墳群 五狭支群2号墳	古墳	古墳(後期)
-3	福沢古墳群 五狭支群3号墳	古墳	古墳(後期)
84	荒原遺跡	集落址	縄文~平安
85	綱掛原遺跡	集落址	縄文~平安
86	祭祀跡	祭祀跡	平安
87	島黄銅鉱採掘跡	採掘跡	近代
88	島マンガン鉱採掘跡	採掘跡	近代
89	上平黄銅鉱採掘跡	採掘跡	近代
90	横吹北国街道跡	街道跡	近世



試掘調査位置図 (1 : 25,000)



## 第Ⅱ章 調査の結果

### 1 中之条遺跡群5

所在地 坂城町大字中之条1372-3

事業主体 (有)プレテックミヤ

事業名 工場・貸し住宅建設事業

調査期間 平成15年4月15日

面積 940㎡ (180㎡)

担当者 齋藤達也



試掘調査位置図 (1:2500)

#### 遺跡の環境と調査にいたる経緯

中之条遺跡群は、御堂川によって形成された扇状地上に位置する縄文時代から平安時代の遺跡群である。本遺跡群内では、寺浦遺跡、上町遺跡、東町遺跡、宮上遺跡、北川原遺跡で発掘調査が実施されており、古墳時代から平安時代にかけての集落の状況が徐々に解明されてきている。

今回、(有)プレテックミヤが遺跡群内に工場及び貸し住宅の建設を計画したことから、開発対象地の遺跡の状況を確認するために試掘調査を実施することとなった。開発対象地は平成14年度から15年度にかけて実施された豊饒堂遺跡Ⅲの発掘調査地点の南に隣接している。

#### 調査結果

東西方向に2本のトレンチを設定して確認を行ったところ、いずれのトレンチからも地表面より約40cm下で土坑址やピットが検出された。遺物についても、土師器と思われる土器片が数点出土しているが、細片のため所属時期は不明である。そのため、検出された遺構の詳細な時期も推定できなかったが、開発対象地には遺跡が残っていることが判明した。

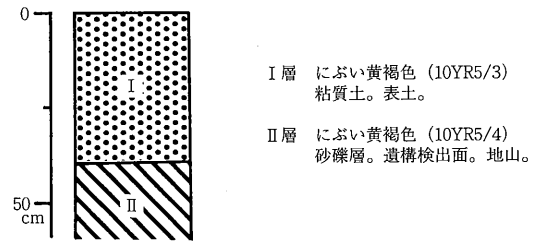


1号トレンチ検出状況 (西より)

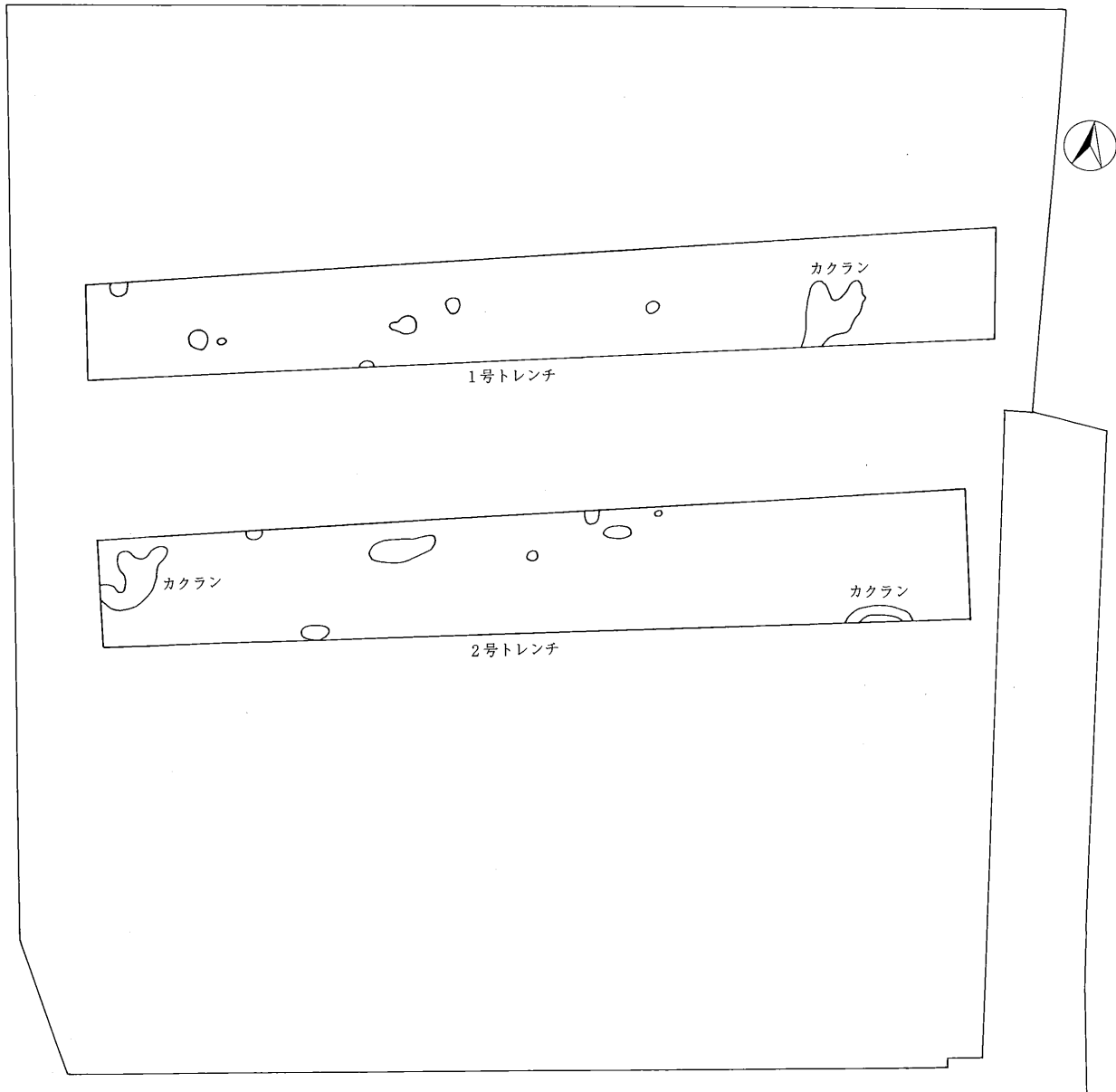


2号トレンチ検出状況 (東より)

この結果を踏まえて遺跡の保護措置について原因者と協議を行ったところ、設計変更により遺跡の保護層を確保しつつ開発を行うことが可能となり、遺跡は保護されることとなった。



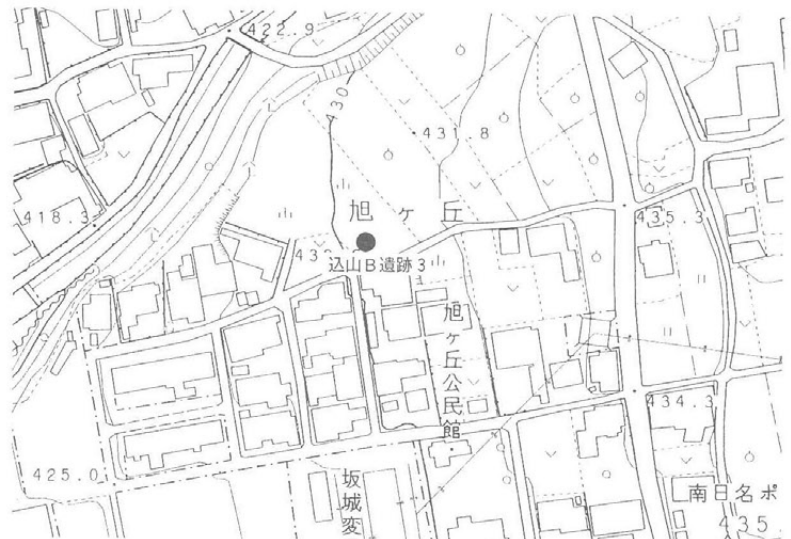
基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1 : 200)

## 2 込山B遺跡3

所在地 坂城町大字坂城字社宮神6119  
事業主体 池田尚弘  
事業名 集合住宅建設  
調査期間 平成15年7月15日～  
平成15年7月17日  
面積 1170㎡ (230㎡)  
担当者 齋藤達也



試掘調査位置図 (1:2500)

### 遺跡の環境と調査にいたる経緯

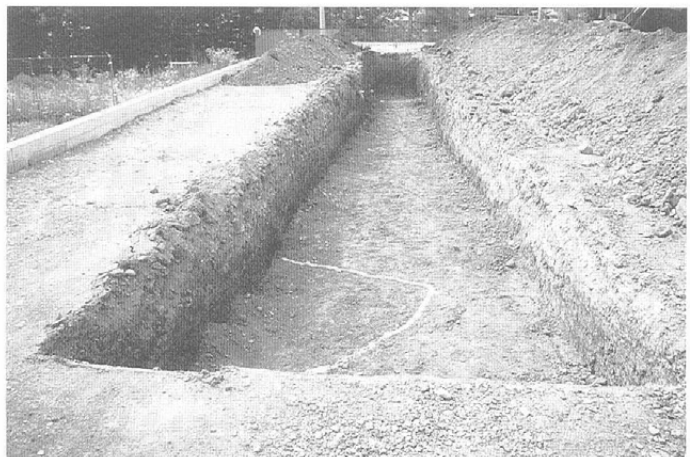
込山B遺跡は、坂城町大字坂城に広がる込山遺跡群の一部で、縄文時代～平安時代の集落址とされている。また、平安時代に存在していたとされる込山廃寺跡もこの遺跡群内にある。

同遺跡群内では、いずれも整理中であるが、現在までに込山B遺跡や込山C遺跡で試掘調査や発掘調査が実施されている。込山遺跡群の詳細については、後述の本章「6 込山D遺跡」で触れることとする。

今回の試掘調査は平成13年度に実施された込山B遺跡の調査地点から50m程北東の地点で、池田尚弘氏が集合住宅の建設を計画したことから、遺跡の状況を把握するために実施されたものである。開発対象地は、日名沢川の南に隣接していることから、北に下がる地形であるが、盛土が施されており平坦になっている。



1号トレンチ検出状況 (南より)



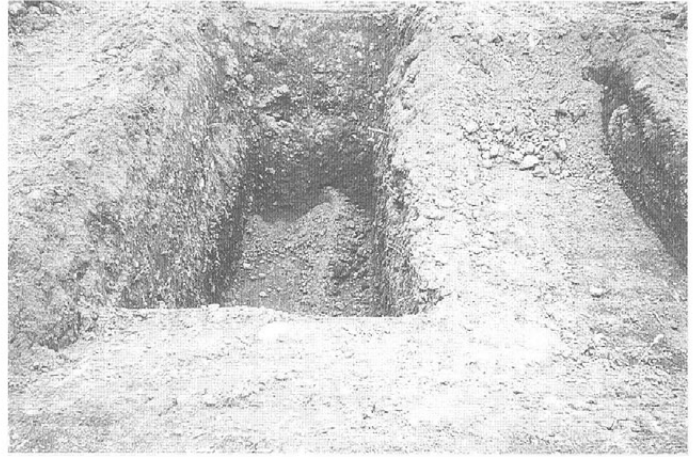
2号トレンチ検出状況 (南より)

### 調査結果

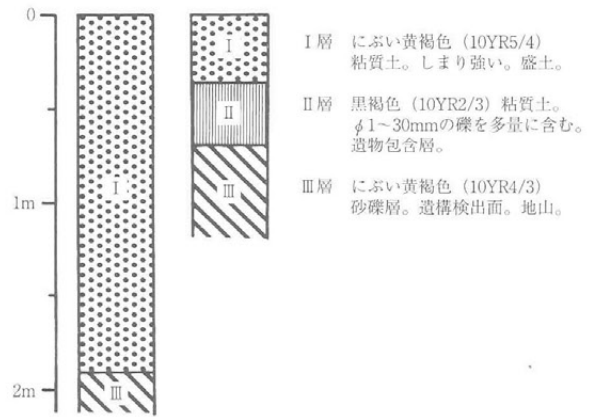
南北方向に長いトレンチを2ヶ所と1号トレンチの北にテストピットを1ヶ所設定して遺跡の確認を行った。土層は盛土層(基本層序模式図I層)、遺物包含層(II層)、地山層(III層)の3層に分けられ、遺構の検出はIII層の上面で行った。その結果、いずれのトレン

チからも地表下70~180cmで遺構と遺物が検出された。検出された遺構は竪穴住居址、土坑址、ピットであるが、いずれのトレンチでも北側では遺構があまり検出されなかった。これは調査地点の北に隣接して流れる日名沢川の影響によるものと考えられる。出土した遺物は縄文~平安時代の土器片が数点出土しているが、量が少ない上、細片のため、検出された遺構の時期を窺い知れるものではなかった。

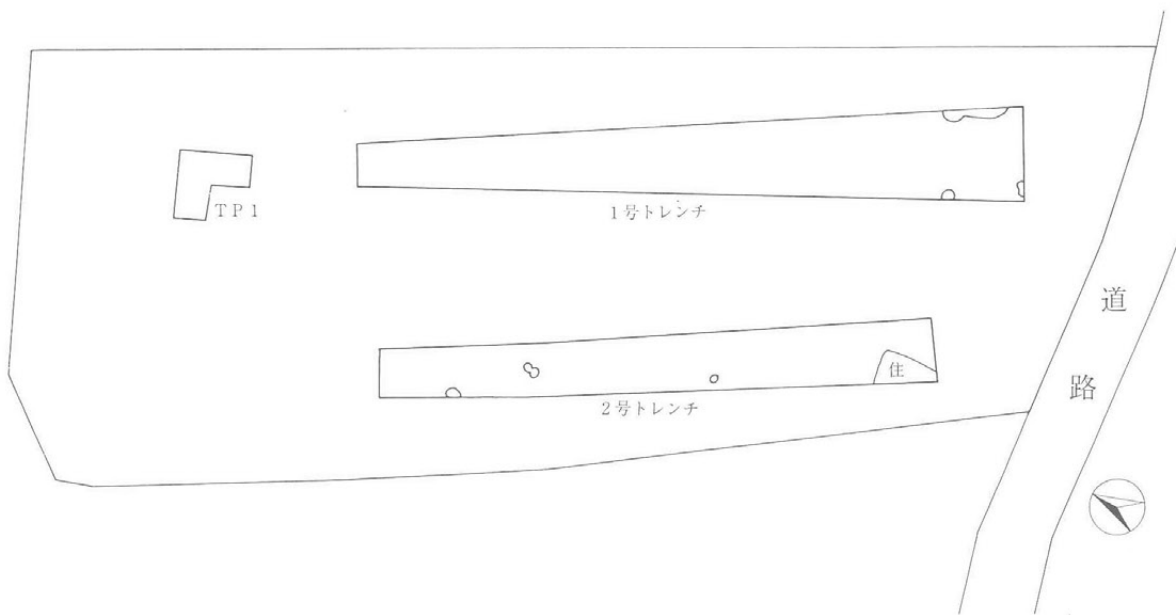
以上のことから、開発対象地には遺跡が存在していることが判明したが、開発は遺構が検出されていない1号トレンチの北部とTP1を設定した場所で行われる計画のため、発掘調査は実施せず、工事着手時に立会い調査を実施することとなった。



TP1 検出状況 (北より)



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1:400)

### 3 かな い い せき 金井遺跡

所在地 坂城町大字南条2110  
事業主体 日精樹脂工業株式会社  
事業名 工場建設  
調査期間 平成15年7月29日～  
平成15年7月31日  
面積 1620㎡ (80㎡)  
担当者 齋藤達也



試掘調査位置図 (1 : 2500)

#### 遺跡の環境と調査にいたる経緯

金井遺跡は、坂城町大字南条に所在する縄文時代から平安時代にかけての集落址である。現在までのところ本遺跡内では発掘調査は実施されていないが、この遺跡の南、及び西側に隣接する塚田遺跡では、平成4年度と5年度に発掘調査が実施されている。道路建設に伴って実施された前者の調査では平安時代の水田址などが検出されている。また、工業団地の建設に伴って実施された後者の調査では弥生時代の竪穴住居址や土坑址が多数検出され、弥生時代の集落址であることが確認されている。

今回は、日精樹脂工業株式会社が、この地に既存の工場を解体して、新たな工場の建設を計画したため、試掘調査を実施して遺跡の確認を行うこととなった。開発対象地は平成4年度に実施された塚田遺跡の発掘調査地点の150m程北に位置する。

#### 調査結果

調査は旧工場を解体した後に実施した。旧工場は地中に深く長大な基礎が敷設されていたため、その部分は遺跡が存在していても、すでに破壊されている可能性が高かった。そのため、試掘トレンチは基礎による掘削の影響が少ない部分を選んで3ヶ所に設定した。



1号トレンチ検出状況 (東より)



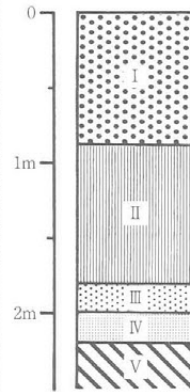
2号トレンチ検出状況 (西より)

調査の結果、いずれのトレンチからも、約1.7m下で地山と思われる黄褐色の砂礫層が検出されたが遺構・遺物は検出されなかった。この土層は谷川の押し出しによるものと思われる。

調査では湧水も見られ、居住に適さなかった状況が今回の調査によって判明した。

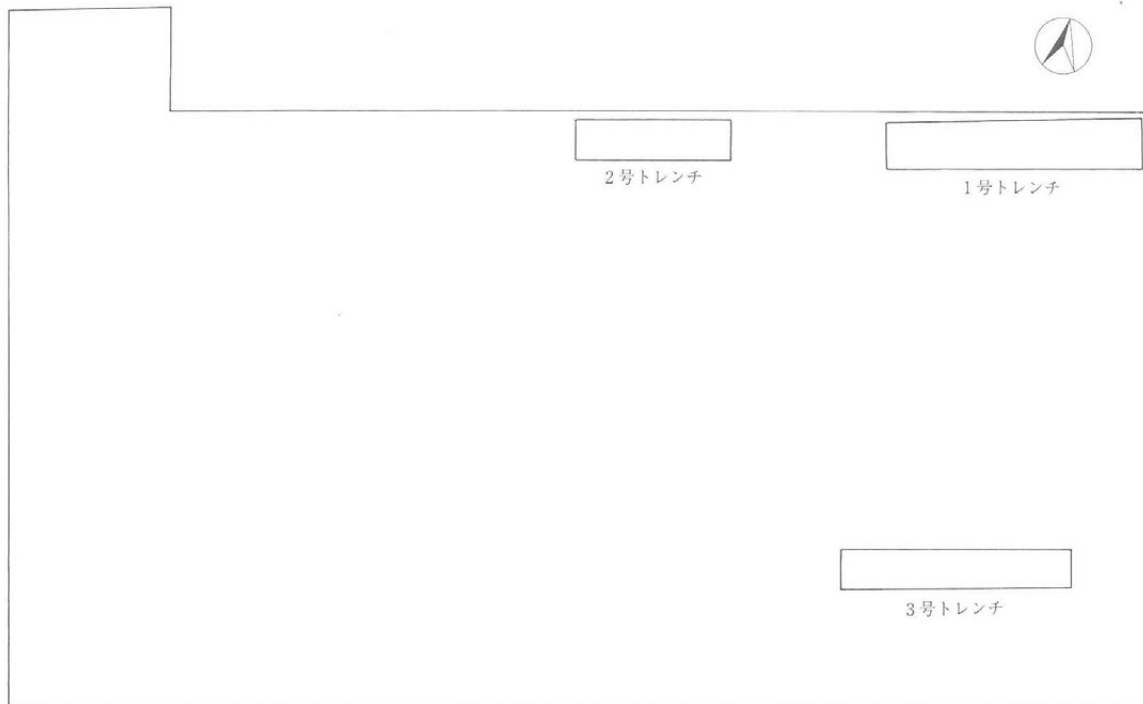


3号トレンチ検出状況（西より）



- I層 におい黄褐色 (10YR5/4) 粘質土。旧工場に伴うカクラン層。
- II層 におい黄褐色 (10YR5/4) 砂礫層。
- III層 褐灰色 (10YR5/1) シルト。水田層。
- IV層 暗青灰色 (10BG3/1) シルト。
- V層 におい黄褐色 (10YR5/4) 砂礫層。地山？

基本層序模式図



試掘トレンチ設定図（1：400）

## 4 入田遺跡

所在地 坂城町大字坂城字御所沢  
7099-1、7101-1  
事業主体 有限会社滝沢製作所  
事業名 工場建設  
調査期間 平成15年8月5日  
面積 1250㎡ (200㎡)  
担当者 齋藤達也



試掘調査位置図 (1:2500)

### 遺跡の環境と調査にいたる経緯

入田遺跡は坂城町大字坂城字御所沢に位置する遺跡で、坂城町遺跡分布図によると、奈良・平安時代の遺物の散布地とされている。本遺跡内では試掘調査や発掘調査の実績がなく、状況は不明な部分が多い。近隣では、規模や形状は不明であるが塚内古墳が存在している。本古墳は、採集された土師器、須恵器から6世紀後葉の築造と推定されている。

今回、この遺跡内の西に面した傾斜地に有限会社滝沢製作所が工場の建設を計画したため、遺跡の状況を確認するための試掘調査を実施した。



調査区全景 (南東より)

### 調査結果

開発対象地は前述のとおり西に面したやや急な傾斜地であり、居住には適していないが、同坂城地区には土井の入窯跡や垣外窯跡が存在していることから、須恵器や瓦の窯が構築されている可能性が予想された。また、西端部のやや平坦になった部分に、塚状の積石があることが調査前から確認されており、今回の調査は、この積石が積石塚古墳である可能性も考慮した上で、4ヶ所にトレンチを設定した。

調査の結果、傾斜地に設定したすべてのトレンチでは遺構、遺物が検出されなかった。



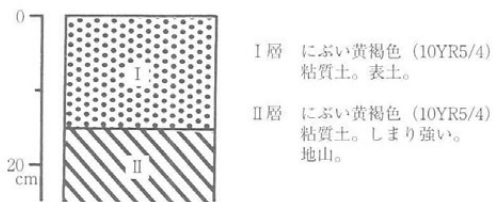
1号トレンチ検出状況 (西より)

積石部分に設定した2号トレンチでは、遺物が出土しなかった上、主体部などの施設も確認できなかったので、積石は後世の耕作等に伴う集石（ヤックラ）であることが判明した。

この結果、開発対象地に遺跡は存在していないことが判明した。遺跡は調査地点の西の平坦部に広がっているものと思われる。



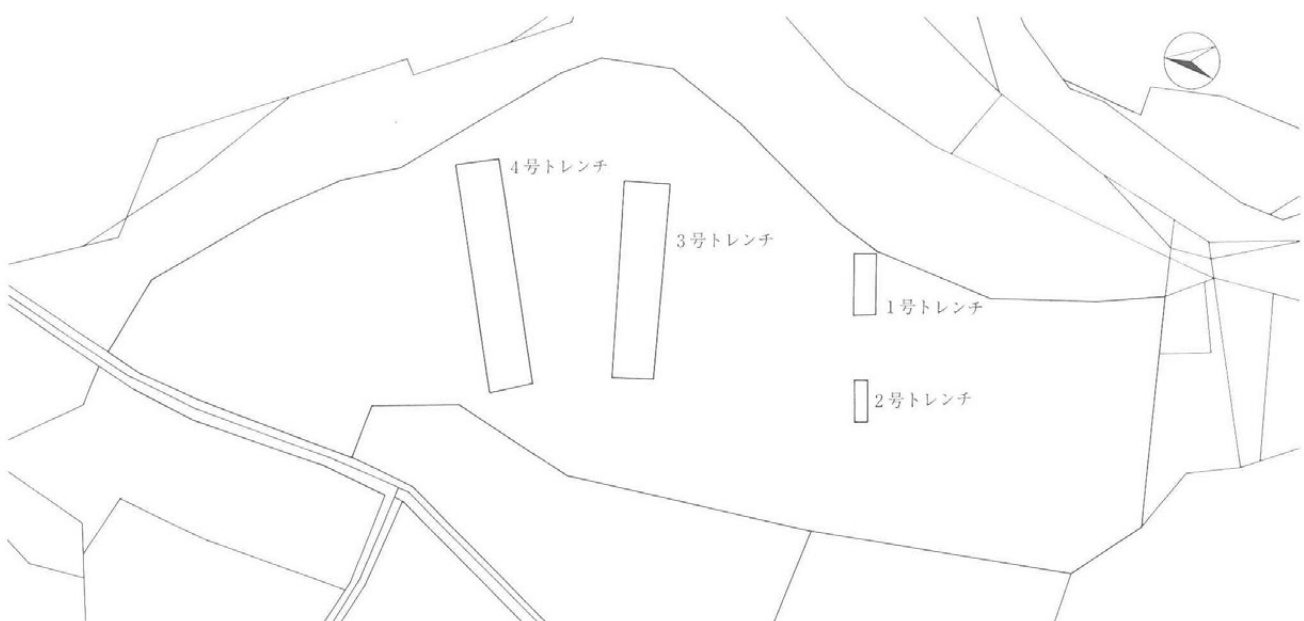
2号トレンチ検出状況（西より）



基本層序模式図



3号トレンチ検出状況（東より）



試掘トレンチ設定図（1：700）



## 5 かみごみょうじょうりすいでんし 上五明条里水田址11

所在地 坂城町大字上平字出浦176ほか  
 事業主体 株式会社竹内製作所  
 事業名 工場建設  
 調査期間 平成15年10月27日～  
 平成15年11月6日  
 面積 18290㎡ (300㎡)  
 担当者 齋藤達也



開発対象地全景（南西より）

### 遺跡の環境と調査にいたる経緯

上五明条里水田址は、坂城町大字上五明、上平、網掛にまたがる平安時代から近世の水田址及び集落址で、千曲川によって形成された沖積地上に立地する。本址では過去に発掘調査が4回、試掘調査が6回行われている。

発掘調査は平成6、8、9、12年度に実施されている。平成6、8年度の調査では仁和4年（888年）の「仁和の洪水」に伴うとされる氾濫砂層に被覆された水田址が検出されて

いる。平成9年度の調査では9世紀末から11世紀に位置付けられる竪穴住居址や土坑址が検出されている。また、平成12年度に（財）長野県埋蔵文化財センターが実施した発掘調査では、近世以降に位置付けられる水田址や土坑址が検出されている。

今回の開発は株式会社竹内製作所が工場の北西の水田部を盛土して駐車場、及び資材置場の造成を計画したことから始まる。計画によれば、駐車場や資材置場の造成には



作業風景スナップ



試掘調査位置図（1：2500）

掘削が伴わないものの、今後同じ場所に工場を建設することも予定されていたため、遺跡が破壊される恐れがあることから試掘調査を実施して遺跡の状況を把握することとなった。当初、開発面積は7830㎡であったが、調査終了後に北側に敷地を拡張することになったため、最終的な開発面積は18290㎡となった。調査地点は平成6年度に実施された発掘調査地点から約250m東側に位置している。

### 調査結果

開発対象地の3ヶ所にトレンチを設定して遺跡の確認を行った。トレンチが南に偏って設定されているのは、調査後に開発対象地が北に拡張されたためである。

その結果、各トレンチの断面で水田層と水田溶脱層が交互に堆積している状況が確認できた(基本層序模式図I～X層)。また、今回の調査では平成6年度及び8年度に行われた調査で検出された「仁和の洪水」に伴うとされる氾濫砂層は検出されなかった。水田以外の遺構では、地表面より190～220cm下のにぶい黄褐色を呈するⅫ層上面で竪穴住居址や土坑址などを検出した。これらの遺構は1号トレンチで特に多く検出されているが、それらは複雑に重複しており、遺構の形状や新旧関係の把握は困難であった。この面と黒褐色を呈するⅪ層からは、いずれのトレンチでも古墳時代から平安時代の土師器、及び須恵器片が出土しているため、検出された遺構も同じ時期に属するものと考えられる。上面の水田層についても、平安時代以降の所産であることがこのことから判明した。出土遺物については、土器の他に1号トレンチで白玉が1点出土し、3号トレンチでは小片であるが羽口片が数点出土している。これらの出土遺物のうち、代表的なものについては図示(第1図)した。



1号トレンチ検出状況(北より)



2号トレンチ検出状況(南西より)

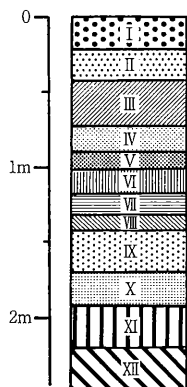


3号トレンチ検出状況(西より)

1-1・2は土師器の高坏の脚部で、坏部は欠損している。3は土師器の長胴甕で口縁部から胴部まで残存しており、底部は欠損している。口径は推定で18.6cmである。1-1~3は、いずれも古墳時代後期から奈良時代の所産と考えられる。4は滑石製の白玉で高さ0.9cm、直径0.8cmである。

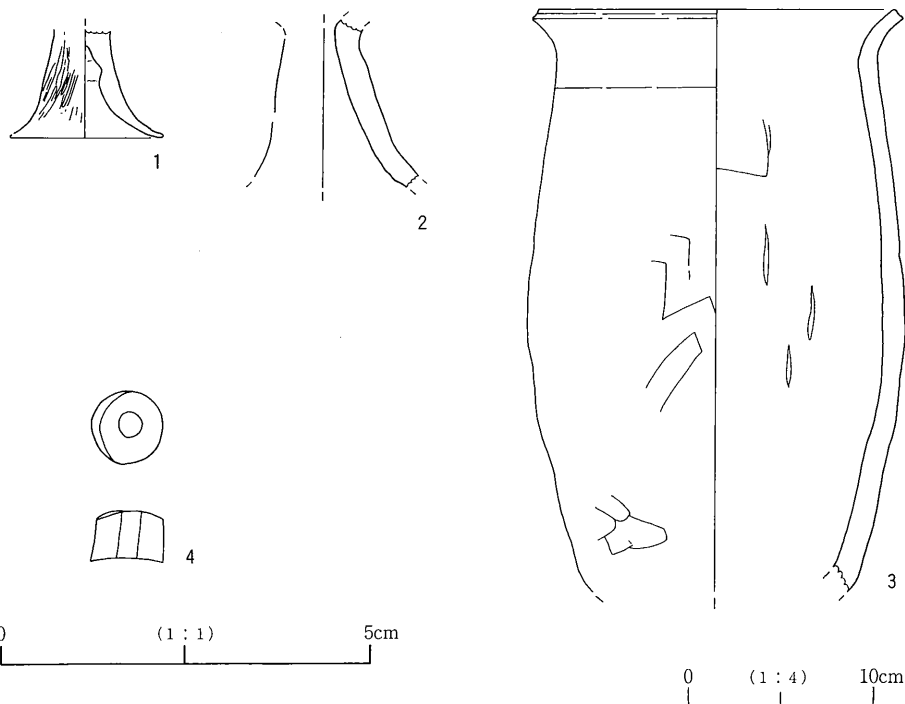
調査の結果、開発対象地には遺跡が存在していることが判明した。この結果は、拡張された北側の部分についても同様の傾向を示すものと考えられる。

以上のことから、開発には何らかの遺跡の保護措置が必要となり、原因者である株式会社竹内製作所と協議を行った結果、建設のための基礎工事での遺跡破壊を最小限となるよう設計変更をしてもらい、工事に際し立会い工事を実施することとなった。対象地内においてほとんどの部分は埋土により保存される予定である。

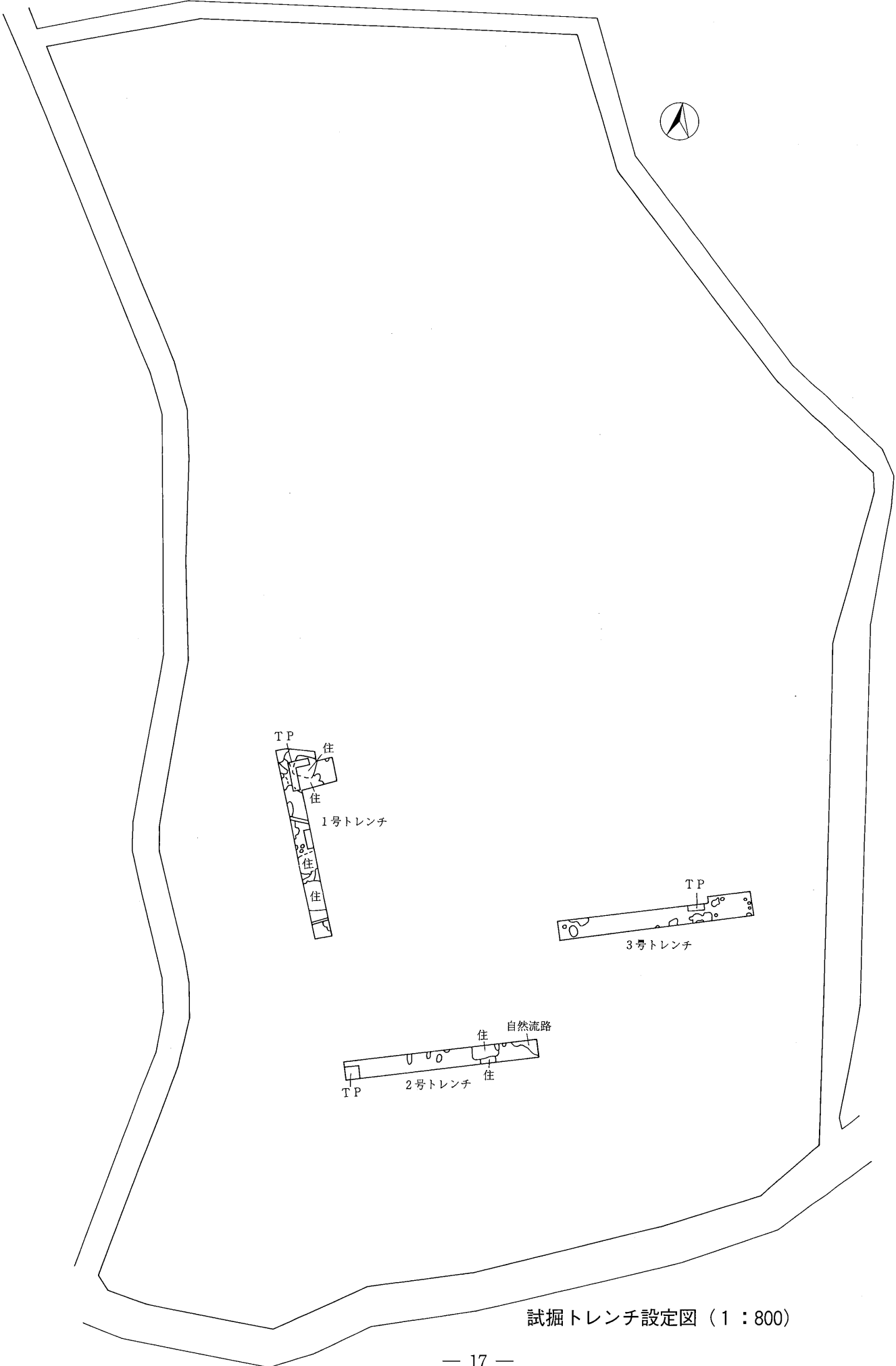


- I層 灰色 (N5/0) 粘土。水田層。
- II層 灰オリーブ色 (7.5Y5/3) 粘土。I層に対応する水田溶脱層。
- III層 灰オリーブ色 (7.5Y5/2) シルト。水田層。
- IV層 オリーブ黄色 (7.5Y6/3) シルト。III層に対応する水田溶脱層。
- V層 灰色 (N5/0) シルト。水田層。
- VI層 オリーブ灰色 (10Y5/2) シルト。V層に対応する水田溶脱層。
- VII層 灰色 (N5/0) シルト。水田層。
- VIII層 灰オリーブ色 (7.5Y5/3) シルト。VII層に対応する水田溶脱層。
- IX層 褐灰色 (10YR5/1) シルト。水田層。
- X層 オリーブ黄色 (7.5Y6/3) シルト。IX層に対応する水田溶脱層。
- XI層 黒褐色 (10YR3/2) シルト。遺物包含層。
- XII層 ぶい黄褐色 (10YR6/3) シルト。遺構検出面。

### 基本層序模式図



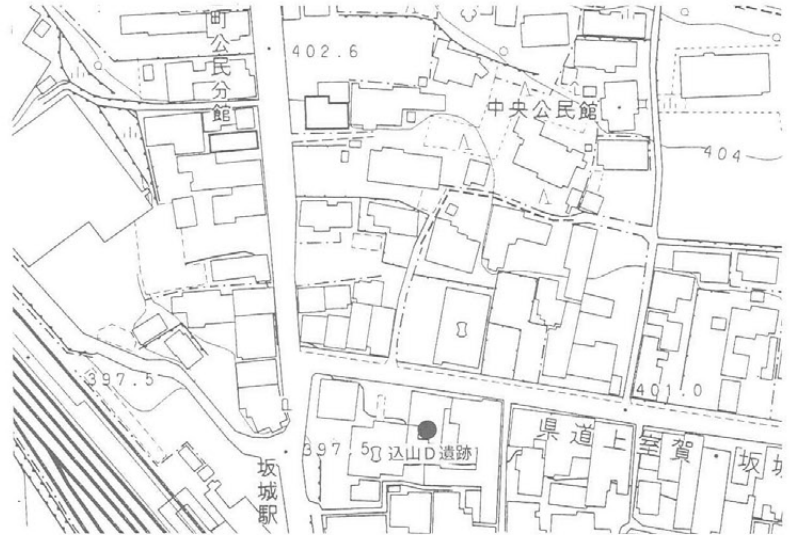
第1図 上五明条里水田址出土遺物実測図



試掘トレンチ設定図 (1 : 800)

## 6 込みやまでいいせき 込山D遺跡

所在地 坂城町大字坂城6406-1  
事業主体 坂城町商工課  
事業名 商業インキュベータ施設建設  
調査期間 平成16年2月4日～  
平成16年2月6日  
面積 510㎡ (260㎡)  
担当者 齋藤達也



試掘調査位置図 (1:2500)

### 遺跡の環境と調査にいたる経緯

込山D遺跡は、坂城町大字坂城に広がる込山遺跡群の一部で、縄文時代～平安時代の集落址とされている。

込山遺跡群は込山A～E遺跡で構成される遺跡群である。また、同遺跡群内には9世紀初頭の寺院址とされる込山廃寺跡があり、昭和28年に坂城小学校の校庭を拡張した際、礎石と瓦が出土している。

込山B遺跡や込山C遺跡では、まだ整理中ではあるが試掘調査や発掘調査が実施されており、徐々にではあるが遺跡の状況が判明しつつある。

込山B遺跡では平成11年度と13年度に町営住宅の建設に伴って発掘調査が実施されており、平成11年度の調査では、弥生時代中期の住居址や土器が検出されたほか、奈良・平安時代の住居址が出土している。また、布目瓦も出土しており、この調査地点の南にあったとされる込山廃寺跡と何らかの関連のあった集落が存在していたことが判明している。また、平成13年度の調査では鉸具が出土している。

込山C遺跡では平成12年度と13年度に坂城町教育委員会による発掘調査がおこなわれているほか、昭和36年に縄文時代中期の土器を伴う配石遺構が出土したことが報告されてい



調査区全景 (南より)



1号トレンチ検出状況 (北より)

る。

坂城保育園建設に伴い平成12年度に実施された込山C遺跡の調査では、町内では初出となった縄文時代前期の竪穴住居址が検出されたほか、奈良・平安時代の竪穴住居址が検出されている。また、布目瓦も出土していることから、平成11年度の込山B遺跡の調査結果と同様に込山廃寺跡との関連が窺い知ることができる。

また、鉄の展示館建設に伴って平成13年度に実施された込山C遺跡Ⅱの調査では、弥生時代後期や古墳時代中期の竪穴住居址が検出されている。

込山D遺跡では発掘調査の実績はないが、信越線（現しなの鉄道）坂城駅の駅前広場の拡張の際、遮光器土偶の頭部の破片が出土し、注目されている。

今回の試掘調査は坂城町商工課が商業インキュベータ施設の建設を計画したため、遺跡の状況を把握するために実施したものである。調査地点は遮光器土偶が出土した坂城駅の東約50mに位置する。

## 調査の結果

南北に長いトレンチを2ヶ所に設定して確認を行った。土層は、にぶい黄褐色粘質土の表土（基本層序模式図Ⅰ層）、黒褐色粘質土の遺物包含層（Ⅱ層）、及びにぶい黄褐色砂礫層の地山層（Ⅲ層）に分けられ、北にいくほど浅い深度で地山層が確認できた。Ⅱ層についてはトレンチの北側では確認できなかったが、これは以前の開発で破壊されたためと考えられる。遺構の検出はⅢ層上面で行った。その結果、いずれのトレンチからも地表下約90cmで竪穴住居址7棟、土坑址4基、ピット41基の遺構が検出された。遺物についても縄文土器、弥生土器、土師器の破片や石鏃などの石器、五輪塔などの石製品が出土した。検出さ



1号トレンチ検出状況（南より）



2号トレンチ検出状況（北より）



2号トレンチ住居址検出状況（北東より）

れた竪穴住居址などの遺構については遺物の出土状況から古墳～平安時代のものと考えられる。

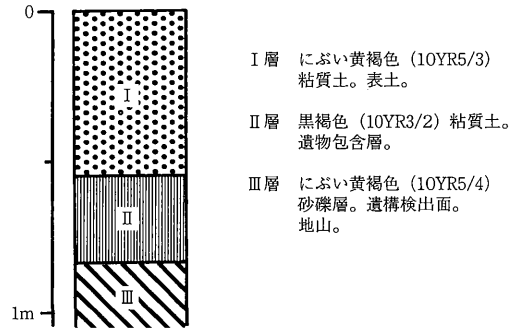
出土遺物については代表的なものを図示した(第2、3図)。

2-1～8は、縄文時代後晩期の土器片である。以前に出土した遮光器土偶のことと合わせて、これらの土器の出土は、この地域に縄文時代後・晩期の集落が存在していたことを推測させるものである。2-9、10については、時期は不明であるが縄文時代の深鉢などの底部と考えられる。

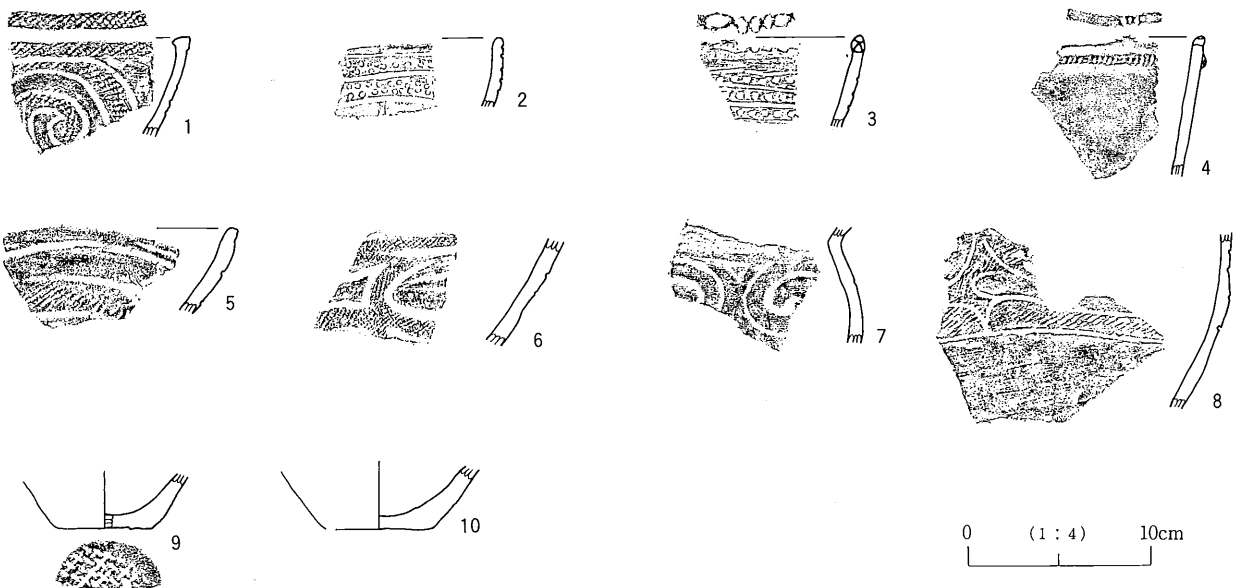
3-1、2は黒曜石製の石鏃である。石器はこのほかに黒曜石の石核や打製石斧片、磨石が出土している。

3-3～7は石製品である。主にI層付近で出土している。これらは中世以降の所産であるが、詳細な時期はいずれも不明である。3は石鉢、5は石臼で、石臼は他に2点出土している。6、7はそれぞれ五輪塔の空輪、水輪と思われる。4は直径17.0cm、高さ10.5cmを測り、中央部が穿孔されている石製品であるが、用途は不明である。

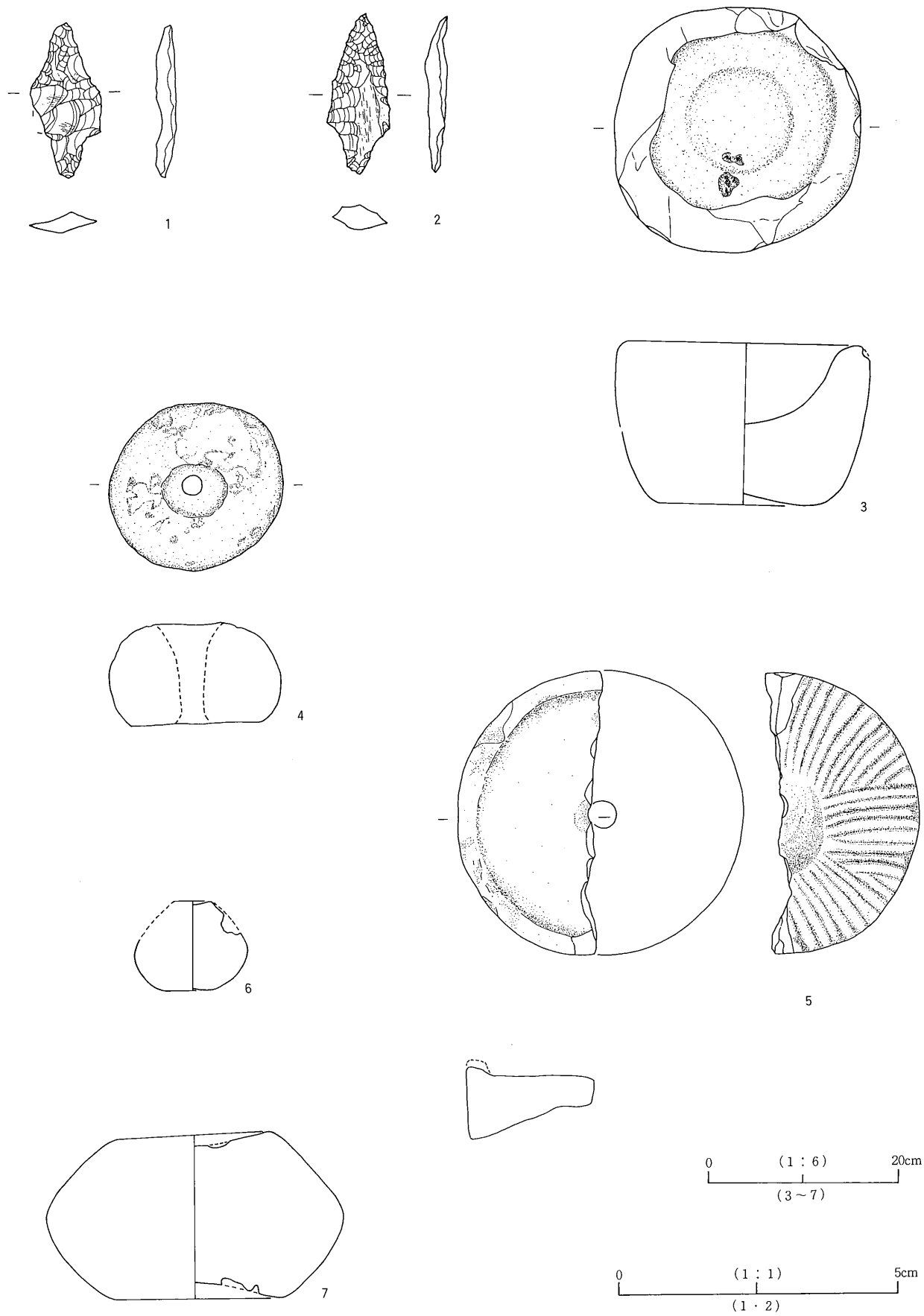
この結果、開発対象地の全域に遺跡が存在していることが判明したため、原因者である坂城町商工課と遺跡の保護措置について協議を行った。その結果、当初の計画よりも掘削深度を浅くし、遺跡の保護層が確保できるように設計が変更されることとなり、遺跡は保護されることとなった。



基本層序模式図



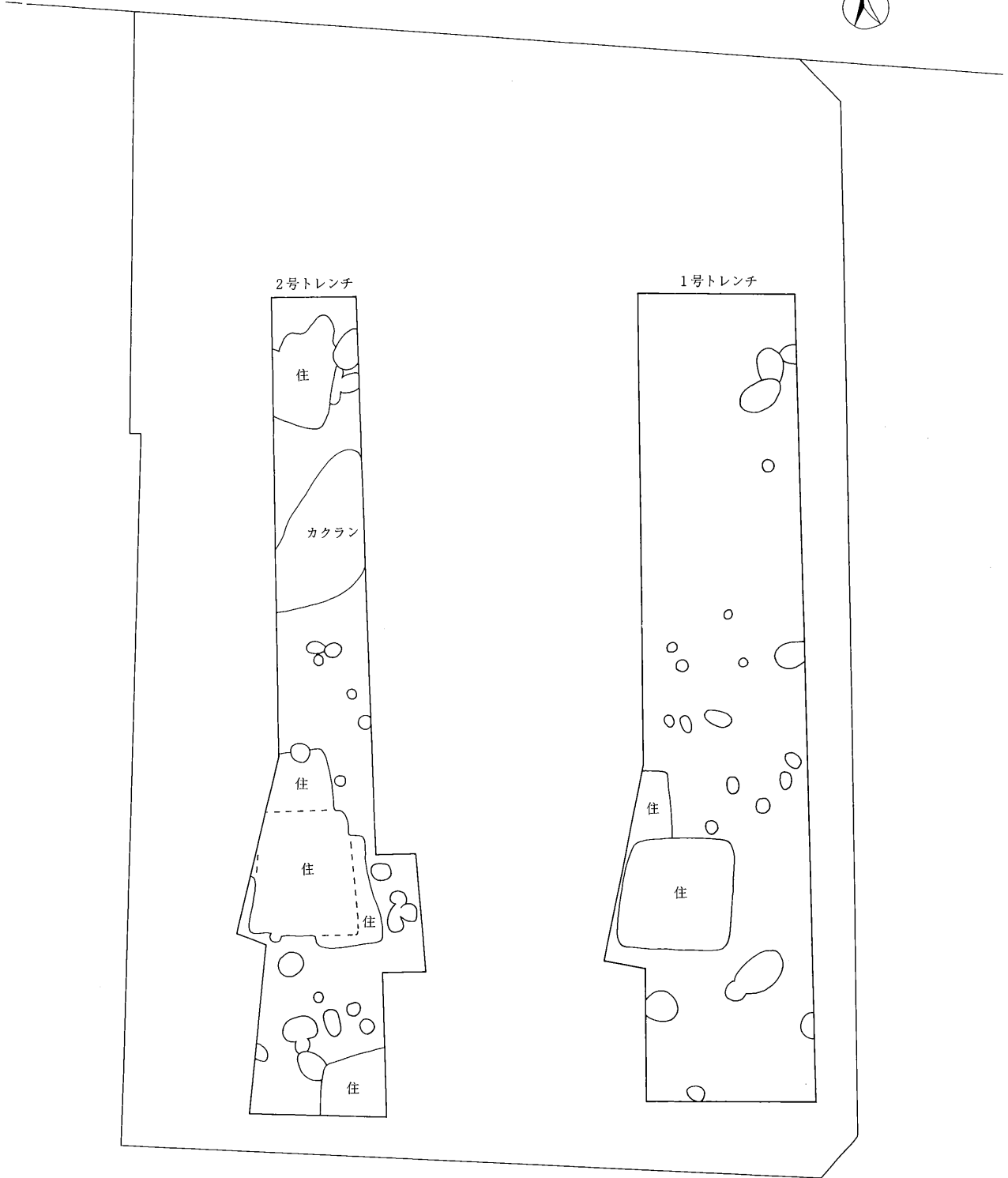
第2図 込山D遺跡出土遺物実測図1



第3图 达山D遺跡出土遺物実測図2



道 路



試掘トレンチ設定図 (1 : 300)

## 7 廻り目遺跡

所在地 坂城町大字南条中堰6873-5

ほか

事業主体 坂城町建設課

事業名 町道A09号線建設

調査期間 平成16年2月9日～

平成16年2月16日

面積 1560㎡ (120㎡)

担当者 齋藤達也



試掘調査位置図 (1:2500)

### 遺跡の環境と調査にいたる経緯

廻り目遺跡は坂城町大字南条の千曲川によって形成された自然堤防上に立地する遺跡で、弥生時代から平安時代にかけての集落址とされている。同遺跡内ではこれまでのところ試掘調査や発掘調査は実施されていないが、漁労に用いたとされる土錘が114点採集されているほか、8世紀のものとされる須恵器の小型平瓶が採集されている。

今回の試掘調査は、坂城町建設課が同遺跡内の町道A09号線の拡幅を計画したため、遺跡の状況を把握するために実施したものである。



1号トレンチ検出状況 (南より)

### 調査の結果

開発は既存の道路の両脇に広がる水田と畑地に盛土を施して現道を拡幅する計画である。そのため、現道に沿って5つのトレンチを設定し、遺跡の状況を確認した。開発対象地は千曲川に非常に近いため、川の影響を大きく受けており、現地表面から40cm程下で拳大から人頭大の円礫を多量に含む砂礫層が検出された。この面で遺構の検出作業を行ったが遺構・遺物は検出されなかった。



2号トレンチ検出状況 (北より)

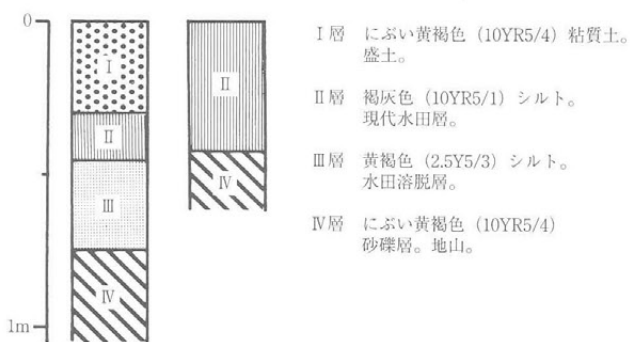
開発対象地は『坂城町遺跡分布図』によると遺跡の西端部の境界線上にあっている。今後、同事業の進行に伴い、継続的な試掘調査を行っていくと遺跡の分布状況が明らかにできると思われる。



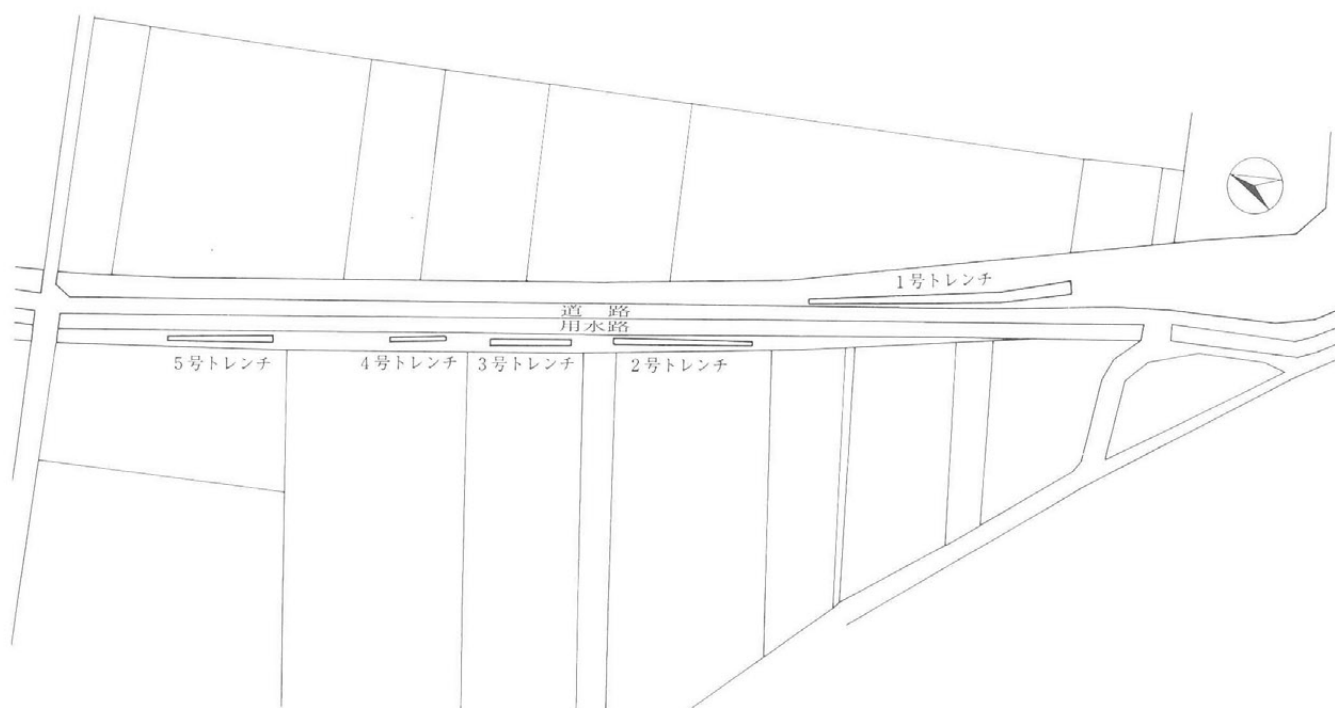
3号トレンチ検出状況（南より）



5号トレンチ検出状況（南より）



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図（1：1200）

## 8 みなみひないせき 南日名遺跡 2

所在地 坂城町大字坂城4507-1 ほか  
事業主体 長野県千曲建設事務所  
事業名 河川改修及び管理用道路建設  
調査期間 平成16年2月16日  
面積 700㎡ (20㎡)  
担当者 齋藤達也



試掘調査位置図 (1:2500)

### 遺跡の環境と調査にいたる経緯

南日名遺跡は、坂城町大字坂城に位置する弥生時代から平安時代の集落址とされる遺跡である。日名沢川や観音沢川によって形成された扇状地上に立地している。同遺跡内では平成9年度にコミュニティ消防センターの建設に伴って試掘調査が実施されており、その調査では土坑址やピットが検出されたほか、土師器が出土している。

今年度、長野県千曲建設事務所が同遺跡内を流れる観音沢川の改修とその管理用道路の建設を計画した。河川の改修部分については、遺跡が存在している可能性が低いことから、立会い調査を実施して遺跡が存在していないことを確認したが、管理用道路の部分については試掘調査を実施して、遺跡の確認をおこなった。



調査区全景 (東より)

### 調査の結果

開発は、既存の道路の北側に沿って掘削し、擁壁を敷設する計画であるため、その部分にトレンチを設定して遺構・遺物を確認した。

現地は南側を観音沢川が流れているため、南に向かって下がっており、既存の道路は川に沿って、盛土を施した上に敷設されている。土層は2層に分けられ、地山と考えられる砂礫層(基本層序模式図Ⅱ層)は地表面から20~40cm下で確認でき、その面で遺構の検出を

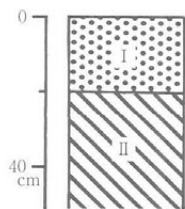


1号トレンチ検出状況 (東より)

行ったが、遺構や遺物は確認できなかった。  
 この結果は、この地点が観音沢川の影響を大きく受けていたことを推測させるものであり、  
 遺跡は開発対象地の北に広がっているものと  
 考えられる。



1号トレンチ検出状況1（西より）

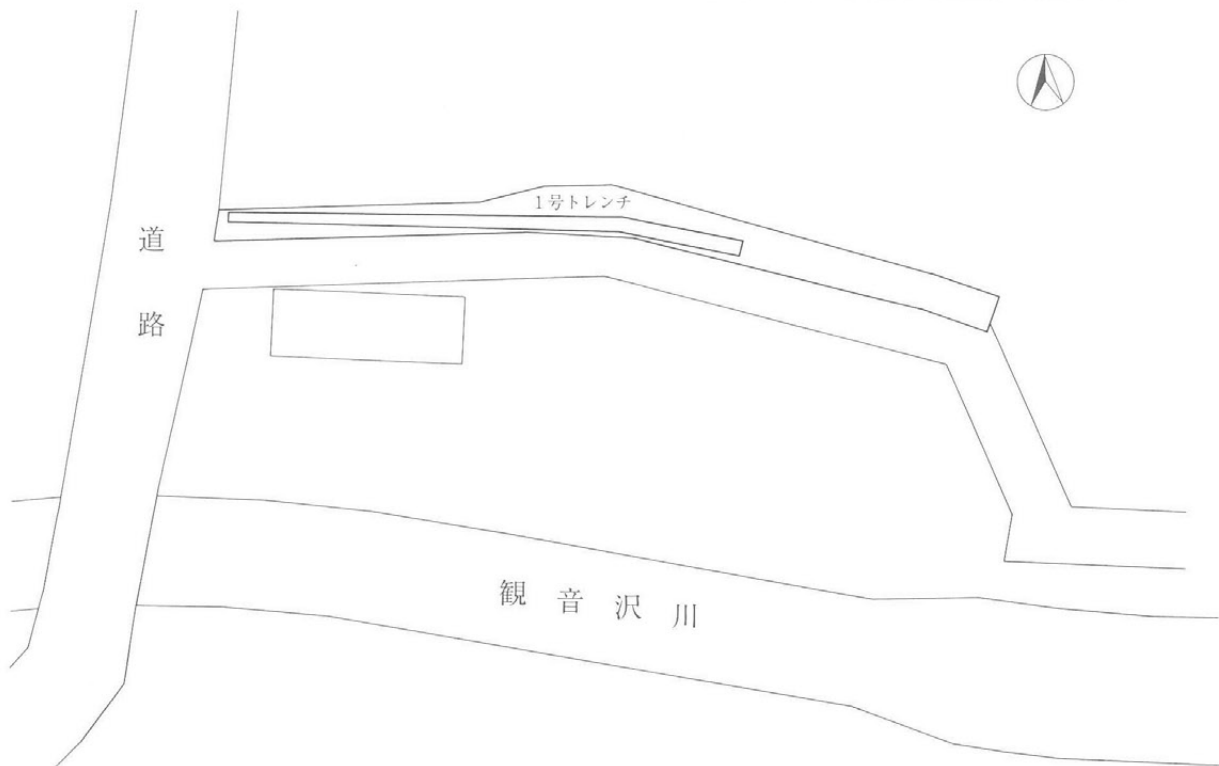


I層 ぶい黄褐色 (10YR5/4)  
 粘質土。表土。  
 II層 ぶい黄褐色 (10YR5/6)  
 砂礫層。地山。

基本層序模式図



1号トレンチ検出状況2（西より）



試掘トレンチ設定図（1：400）

報告書抄録

ふりがな	さかきまちちょうないいせきはつくつちょうさほうこくしょ
書名	坂城町町内遺跡発掘調査報告書 2003
副書名	平成15年度試掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	坂城町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第24集
編著者名	齋藤 達也
編集機関	坂城町教育委員会
所在地	〒389-0602 長野県埴科郡坂城町大字中之条2222 TEL 0268-82-1109
発行年月日	2004年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかのじょういせきぐん 中之条遺跡群 5	さかきまちおおあざなかのじょう 坂城町大字中之条	20521		36°26'38"	138°12'04"	2003年4月15日	180	工場建設事業 貸し住宅建設事業
こみやまびいせき 込山B遺跡 3	さかきまちおおあざさかき 坂城町大字坂城	20521		36°27'52"	138°11'20"	2003年7月15日 2003年7月17日	230	集合住宅建設事業
かにいせき 金井遺跡	さかきまちおおあざみなじょう 坂城町大字南条	20521		36°25'56"	138°11'38"	2003年7月29日 2003年7月31日	80	工場建設事業
いりたいせき 入田遺跡 2	さかきまちおおあざさかき 坂城町大字坂城	20521		36°27'23"	138°12'04"	2003年8月5日	200	工場建設事業
かみこみょうじょうりすいでんし 上五明条里水田址11	さかきまちおおあざうわだいら 坂城町大字上平	20521		36°27'00"	138°10'04"	2003年10月27日 2003年11月6日	300	工場建設事業
こみやまD遺跡	さかきまちおおあざさかき 坂城町大字坂城	20521		36°27'34"	138°11'05"	2004年2月4日 2004年2月6日	260	商業インキュベ ータ施設整備事業
まわり目遺跡	さかきまちおおあざみなじょう 坂城町大字南条	20521		36°25'28"	138°11'34"	2004年2月9日 2004年2月16日	120	町道建設事業
みなみひないせき 南日名遺跡 2	さかきまちおおあざさかき 坂城町大字坂城	25021		36°28'02"	138°11'40"	2004年2月16日	20	河川改修及び管理 用道路建設事業

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中之条遺跡群 5	集落址	縄文～平安	ピット、土坑址	土師器?	
込山B遺跡 3	集落址	縄文～平安	竪穴住居址、土坑址、ピット	縄文土器、土師器、須恵器	
金井遺跡	集落址	縄文～平安	なし	なし	
入田遺跡	散布地	奈良～平安	なし	なし	
上五明条里水田址11	集落址 生産遺跡	古墳～平安	竪穴住居址、土坑址、ピット、水田址	土師器、須恵器、土製品、石製品	
込山D遺跡	集落址	縄文～中世?	竪穴住居址、土坑址、ピット	縄文土器、土師器、石器、石製品	
廻り目遺跡	集落址	弥生～平安	なし	なし	
南日名遺跡 2	集落址	弥生～平安	なし	なし	

## 坂城町埋蔵文化財調査報告書

	『開畝製鉄遺跡－第1次調査報告書』	1977
	『開畝製鉄遺跡－第2次調査報告書』	1978
	『東裏遺跡』	1983
	『中之条遺跡群 宮上遺跡Ⅱ』（概報）	1993
	『南条遺跡群 塚田遺跡』	1993
第1集	『南条遺跡群 東裏遺跡Ⅱ・青木下遺跡』	1994
第2集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1994
第3集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1995
第4集	『南条遺跡群 塚田遺跡Ⅱ』	1995
第5集	『豊饒堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』	1996
第6集	『中之条遺跡群 寺浦遺跡Ⅱ』	1996
第7集	『中之条遺跡群 上町遺跡Ⅱ』	1996
第8集	『上五明条里水田址』	1996
第9集	『町内遺跡発掘調査報告書1995』	1996
第10集	『坂城町試掘調査・立会い調査報告書』	1996
第11集	『町内遺跡発掘調査報告書1996』	1997
第12集	『戌久保・町横尾遺跡』	1998
第13集	『込山Bほか 発掘調査報告書 1997』	1998
第14集	『町内遺跡発掘調査報告書1998』	1999
第15集	『町内遺跡発掘調査報告書1999』	2000
第16集	『開畝遺跡Ⅲ』	2000
第17集	『中之条遺跡群 北川原遺跡Ⅱ』	2001
第18集	『町内遺跡発掘調査報告書2000』	2001
第19集	『中之条遺跡群 宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』	2001
第20集	『金井東遺跡群 保地遺跡Ⅱ』	2002
第21集	『町内遺跡発掘調査報告書2001』	2002
第22集	『町内遺跡発掘調査報告書2002』	2003
第23集	『豊饒堂遺跡Ⅲ』	2004
第24集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2003』（本書）	2004

---

発行日	2004年3月31日
編集者	坂城町教育委員会 〒389-0602 長野県埴科郡坂城町大字中之条2222 TEL 0268 (82) 1109
印刷者	信毎書籍印刷株式会社 〒381-0037 長野県長野市西和田470 TEL 026 (243) 2105

---

